

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="619 741 1157 1115"><tr><td data-bbox="624 748 884 927">1</td><td data-bbox="888 748 1152 927">2</td></tr><tr><td data-bbox="624 934 884 1113">3</td><td data-bbox="888 934 1152 1113">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A3判以上のため				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0213  
0214  
0215  
0216

屬所

第五軍

部隊名

(三)

通稱號

郵便所名

全般概要

轉入  
十九年以降

轉出  
十九年以降

編制人員

隊別

隊長名  
( )内は先代を示す

編入  
戦時  
人員

駐屯地  
平時  
戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より  
入「ソ」迄の變動

入「ソ」人員  
隊別計

滿洲殘留

收容

53 53 53 25

第三隊 第九中隊 第八中隊 第七中隊 第三大隊本部

中尉 三好 復

中尉 鈴木 重之助

大尉 大上 三喜男

隊長名 (内は先代を示す)	開人 戦時 員	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 隊別計	滿洲 殘留	收容所		歸還人員 滿洲より領計	狀況不明 者數
		平時	戦時						收容所名	所入 死亡		
大尉 大上三喜男												
中尉 鈴木明七郎												
中尉 三好 優												

(三)

通稱號

郵便所名


165                      57                      53                      53                      53                      25

列 段 隊 聯	列 段 隊 大 三 第	隊 中 九 第	隊 中 八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第
中尉 江藤			中尉 三井 廣	中尉 鈴木 昭之助	大尉 大上 三吾男
八重道太郎之傳記 八二五—八一四 死在七五					

--

在古勇(王田大塚)長  
平(少佐)八八(少佐)  
大下(少佐)八八(少佐)  
日白

--

列 段 隊 聯	列 段 隊 大 三 第	隊 中 九 第	隊 中 八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三
中尉 江橋			中尉 三丹 儀	中尉 鈴木 重雄	
八面連太郎の海軍補佐として 八二一八二四、海軍少佐として 死去					

在土庫一三六天隊  
平均少佐として  
大下留、少佐として  
死去

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="622 728 1157 1108"><tr><td data-bbox="622 728 885 918">1</td><td data-bbox="885 728 1157 918">2</td></tr><tr><td data-bbox="622 918 885 1108">3</td><td data-bbox="885 918 1157 1108">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0217  
0218

第五軍第一二六師團部隊名第一二六師團工兵隊

通稱號 滿英斷一五八二五三

郵便所名

0219  
0220

全般概要

轉入

轉出

員入制編

八、九、八面迎南五〇等  
陸地構築中牡丹江方面に移  
動、夜間行動のため落伍者  
行方不明約三〇名あり、松  
河附近に於て戦死損耗約五  
〇  
八、一四、牡丹江にて所在  
の不明と交響音は松河渡河子  
へ夜逃  
損耗相あり

一九年以降  
二〇、三、二八  
二二五部隊  
一四九  
二〇、三、一〇  
三部隊守備隊  
一一一  
二〇、三、一〇  
二二部隊守備  
一〇一  
現役 二〇、三、一五  
七十七

288名(20.1.16編成)

185

185

185

23

隊別	隊長名	人員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソソ迄の變動	入ソソ人員	満洲残留
本隊	少佐 高野 光衛 副官 郡司 澄雄					作業大隊より入ソソ迄の變動 作業者124大隊 (長 平川亮一少佐) 當隊より二四〇名		
第一中隊								
第二中隊								
第三中隊								
器								

隊名 第一二六師團工兵隊

通稱 號

滿洲 英斷一五二五三

郵便所名

隊別	本 部	第 一 中 隊	第 二 中 隊	第 三 中 隊
隊長 名 ( )内は先代を示す 少佐 高野 光衛 副官 郡司 澄雄 少尉				
開入 戦時 人員				
駐屯地				
戦時 戦時 戦時				
戦闘間の状況及損耗				
終戦後の人員變動				
作業大隊より 入「ソ」迄の變動 <small>作業第12大隊 (長 平川亮一少佐) 倉庫より二頭〇名</small>				
入「ソ」人員				
隊別 計				
滿洲 殘留				
收容所名				
收容所名				
同 同 一八イリ チヨリフア 二一、四、二〇ベリ オンキ				
二〇、九、二二ゴ デーロ				
收容所名				
死亡				
滿洲 領 計				
歸還人員				
者 数				
狀況不明				



○ 兵部省の管轄する陸軍の各部隊の編成は、この表に示す通りである。○ 兵部省の管轄する陸軍の各部隊の編成は、この表に示す通りである。

二〇、四、一〇  
二二、四、一〇  
三〇、四、一〇  
二〇、四、一〇  
二二、四、一〇  
三〇、四、一〇

288名(20.1.16編成)

41 185 185 185 23

本	部	第一中隊	第二中隊	第三中隊	器材小隊
少尉 曹長 中尉					

陸軍省

隊 小 材 器

隊 中 三 第

隊 中 二 第

隊 中 一 第

部 本

少佐 副官  
澄雄 部司  
光徳

作 務 部 大 隊  
(第 一 平 出 隊 一 少 佐)  
寄 附 員 二 四 〇 名

二〇、九、一ニグロ  
デ：＝  
同 一八イソ  
テヨ：フア  
二二、四、二〇ベツ  
オンキ

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="635 745 1169 1115"><tr><td data-bbox="635 745 890 931">1</td><td data-bbox="890 745 1169 931">2</td></tr><tr><td data-bbox="635 931 890 1115">3</td><td data-bbox="890 931 1169 1115">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A3判以上のため				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

02231  
02232  
02233  
02234

第五軍第一二六師團

部 隊 名 第一二六師團通信隊

通稱號 英斷九七五  
英斷一五二五六

郵便所名

全般概要 八面通自製電圧降地線架 八、九、信河に接送 八、一三、松岡中隊自派 八、一三、一五、松岡にて設 八、一三、一五、松岡にて設 八、一六、横道河子着 八、一八、同地にて武装解		轉入 三十九年以降 二五師團通信隊 五六	轉出 十九年以降	人員制編 207名 (20.1.16編成)		別 隊	隊長名 (内は先代を示す) 中尉 長岡 義信 副官 官田 正次 少尉 宮田 正次 中尉 長岡 義信	戰 闘 人 時 員 300	駐 屯 地 平 陽	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動 指揮官 有線隊一連中隊 (派車長 甲田 在藏) 一	作業大隊より 入「ソ」迄の變動 一三五大隊に編入 (長岡 義信中尉) 一七二大隊	入「ソ」人員 隊別 計	滿洲殘留
隊 中 線 有		隊 中 線 無		隊 中 線 無		隊 中 線 無		隊 中 線 無		隊 中 線 無		隊 中 線 無		

部隊名 第一二八師團通信隊

通稱 英滿 英斷 一五二五六

郵便所名

隊	中	無	隊	有	部	本	員人副編
別	隊	長	名	時	戰	開	
					基	中尉 長岡 義信 副官 宮田 正次 少尉 宮田 正次 中尉 長岡 義信 少尉 宮田 正次 中尉 長岡 義信	
						300	
						陽 平	駐屯地
							戰鬥中の状況及損耗
							終戦後の人員變動
							作業大隊より入「ソ」迄の變動 一三五大隊に編入 (長 藤澤中尉) 一七二大隊
							隊別
							計
							滿洲残留
							收容所名
							收容所
							死亡
							滿洲より
							人員
							状況不明
							者数



本部		隊 種 線 有	隊 種 線 無	行	季
本	部		東 大 田 正 義		
307					
器					



(20.1.16編成)

ハイコンスク  
タイムツト  
コンピューテスカタム

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1"><tr><td data-bbox="715 734 794 891">1</td><td data-bbox="976 734 1056 891">2</td></tr><tr><td data-bbox="715 913 794 1070">3</td><td data-bbox="960 913 1040 1070">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					



第五軍第一二六師團部隊名 第一二六師團輜重隊

通稱號 滿二二七〇 英斷一五二五七

郵便所名 滿洲

第八

0225	原駐地	全般概要	轉入	轉出	員人調轉	別隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計
0226	原駐地	全般概要	轉入	轉出	員人調轉	別隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計
0227	原駐地	全般概要	轉入	轉出	員人調轉	別隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計
0228	原駐地	全般概要	轉入	轉出	員人調轉	別隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計
0229	原駐地	全般概要	轉入	轉出	員人調轉	別隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變動	隊別計

第一二六師團輜重隊の戦況  
 第一二六師團輜重隊は、八月八日、江丹社にて本隊に合流し、八月十一日、牡丹江にて本隊に合流した。八月十三日、牡丹江にて本隊に合流した。八月十五日、牡丹江にて本隊に合流した。八月十七日、牡丹江にて本隊に合流した。八月十九日、牡丹江にて本隊に合流した。八月二十一日、牡丹江にて本隊に合流した。八月二十三日、牡丹江にて本隊に合流した。八月二十五日、牡丹江にて本隊に合流した。八月二十七日、牡丹江にて本隊に合流した。八月二十九日、牡丹江にて本隊に合流した。八月三十一日、牡丹江にて本隊に合流した。

882名 (20.1.16編)	212	6	260	300	260	300	260	300	260	300	260	300	260	300
自) 三第	隊中(馬鞍)二		中尉 佐藤 又一		中尉 大城		中尉 池田 一郎		中尉 佐藤 又一		中尉 大城		中尉 池田 一郎	
			鷺 鷺		鷺 鷺		鷺 鷺		鷺 鷺		鷺 鷺		鷺 鷺	
			右 同		右 同		右 同		右 同		右 同		右 同	
			戦死者一名、行方不明三、四名		戦死者一名、行方不明三、四名		戦死者一名、行方不明三、四名		戦死者一名、行方不明三、四名		戦死者一名、行方不明三、四名		戦死者一名、行方不明三、四名	
			第一三五大隊に編入 (第三中隊の全員約二五〇)		第一三五大隊に編入 (第三中隊の全員約二五〇)		第一三五大隊に編入 (第三中隊の全員約二五〇)		第一三五大隊に編入 (第三中隊の全員約二五〇)		第一三五大隊に編入 (第三中隊の全員約二五〇)		第一三五大隊に編入 (第三中隊の全員約二五〇)	

第五軍第一二六師團部隊名 第一二六師團輜重隊

通稱號

滿洲 二二七〇  
英斷 一五二五七

郵便所名

滿洲

0225  
0226  
0227  
0228  
0229

全般概要		轉入		轉出		員人制編		別隊		隊長名		戰鬥間之状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より入「ソ」迄の變動		隊別計									
原隊地編成 二〇、三下旬、平陽に移動 五、二五、仙陽にて陣地構築のため移動 八、一三、一四、愛河にて敵襲軍と交戦若干の損害を受く 八、一六、横道河子にて武装解除 八、一七、海林へ集結		二〇、三、二八 編三五隊隊 八八四 二〇、五、一七 左衛門名者 約六〇〇		戦病死 一一 二〇、三、一〇 一二四號守備隊 六 二〇、七、二〇 國軍總司令部 五 二〇、五、二五 二二六師司令部 五		882名(20.1.16編成)		56 212 212 17		自) 三 第 隊中(馬鞍) 二 第 隊中(馬鞍) 一 第 部 本		中尉 佐藤 又一 中尉 永井 中尉 大城 少佐 山森 正治 副官 池田 一郎 中尉 池田 一郎		260 300 300 28(71) 將准下兵20		寧 鷄 右 同 右 同 右 同		同 右 同 右 同 右 同 右		戦死者一名、行方不明三、四名		戦死者以外には變動なし		九、一〇、海林にて第一三五大隊を編成(當隊が主幹)自奥屯を経てクレーン進軍、タイセンに到る		入「ソ」人員 滿洲残留	

第五軍第一二六師團部隊名 第一二六師團輜重隊

團部隊名 第一二六師團輜重隊

通稱號 滿二二七〇 英斷一五二五七

郵便所名 滿洲第八三四軍事郵便所

156	882名(20.1.16編成)	212	212	17	員入制編
動自) 三 第	隊 中 (馬 鞍) 二 第	隊 中 (馬 鞍) 一 第	部	本	別 隊
中尉 佐藤 又一	中尉 永井	中尉 大城		少佐 山森 正治 副官 池田 一郎	隊長名 (内は先代を示す)
~260	300	300		28(將准下兵20)	時員 開人
尊 鷄	右 同	右 同		陽 平	駐屯地
右 同	右 同	右 同		江丹牡一口 林 洞 仙	戦時
同 右 戦死者一名、行方不明三、四名	同 右	同 右		被河の戦斗にて戦死者を出す 田島軍曹 松浦隊曹長 戦死	戦斗間の状況及損耗
					終戦後の人員變動 戦死者以外には移動なし
					作業大隊より 入「ソ」迄の變動 九、一〇、海林にて第一三 五大隊を編成(富隊が主幹) 自奥屯を返す シロチコ進行軍、タイセン トに到る
150					隊別 入「ソ」人員 計
					滿洲殘留
					收 容 所 名 タイセツト
					タイセツト地区 ネーブルスカヤ收 容所
					所人 死亡 より 滿洲 より 領 計
					歸還人員
					者 数 状況不明

第一三五大隊に編入  
 (第三中隊の全員約二五〇)

八、一七、海軍ノ旅団	八、一六、海軍河子ノ武 装隊	八、一三、一四、海河ノ武 装隊及交野子ノ武裝隊	五、二二、海軍河子ノ武裝隊	二〇、三三、海軍河子ノ武裝隊
二〇、三三、一〇 四九	二〇、三三、一〇 六五	二〇、三三、一〇 八八	二〇、三三、一〇 〇〇	二〇、三三、一〇 〇〇
二〇、三三、一〇 五五	二〇、三三、一〇 五五	二〇、三三、一〇 五五	二〇、三三、一〇 五五	二〇、三三、一〇 五五

882名(20.1.16編成)

156	156	212	212	17
隊中(車動自)四第	隊中(車動自)三第	隊中(馬鞍)二第	隊中(馬鞍)一第	部
中尉 木内 治利	中尉 佐藤 又一	中尉 永井	中尉 大城	
177 <small>(將1 兵173 見1 下2)</small>	250~260	300	300	28 <small>(將7 兵20)</small>
陽平	寧鷄	右同	右同	
右同	右同	右同	右同	江丹社
同右	同右 戰死者一名、行方不明三、四名	同右	同右	

第一三五大隊に編入  
 (第三中隊の全員約二五〇)

250
-----

内容  
 ナイセツト  
 プル  
 ス

隊中(車動自)四第	隊中(車動自)三第	隊中(馬鞍)二第	隊中(馬鞍)一第	部	本
中尉 木内 治利	中尉 佐藤 又一	中尉 永井	中尉 大城		中尉 池田 一輝
177(將1兵173 見1下2)	250~260	300	300		28(將7 准1 下兵20)
陽平	寧鷄	右同	右同		陽
右同	右同	右同	右同		江丹社一口 瀧
同 右	同 右 發死者一名、行方不明三、四名	同 右	同 右		

第一三五大隊に編入  
(第三中隊の公員約二五〇)

高野原の陣地  
ノボリ山に陣取  
ルル所

250

タイセツト地区  
ネイブルスカヤ收  
容所

# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	<table border="1" data-bbox="630 728 1165 1108"><tr><td data-bbox="630 728 885 918">1</td><td data-bbox="885 728 1165 918">2</td></tr><tr><td data-bbox="630 918 885 1108">3</td><td data-bbox="885 918 1165 1108">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影した理由	A 3判以上のため				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0230  
0231  
0232  
0233

第五軍第一二六師團部隊各第一二六師團兵器勤務隊

通稱號 英斷一三九九三

郵便所名

全般概要

編成標準の通り自強中隊  
あり、自強中隊にて編成  
編成標準の通り自強中隊  
あり（約二四名程度あり）

八、一八、横道河子にて約  
七〇名武器弾薬（主力の行  
動不明）

八、二三、一隊一面に  
突進中隊

森林、拉古らに侵入しヤンナ  
地区に散在中。

轉入

轉出

員入制編

112名 (20.5.1編成)

17

隊別	隊長名 （内は先代を不 少尉 平川 庫次 准尉 満井 義章	開入 戦時		駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動 （三三大隊 （五中隊中隊） 計約五〇名）	入「ソ」人員 除別計	滿洲残留
		戦時	平時						
本			平陽						
工									
大									
分									
木									
工									
分									
木									

部隊名 第一二六師團兵器勤務隊

通稱 英斷一三九九三

郵便所名

工 木	隊 分 工 大	隊 分 工 機	部	本	別 隊
					隊長名 (内は先代を示す) 少尉 平川 庫次 准尉 滝井 義章
					戦時 戦時 時員 時員
				陽 平	駐屯地
					戦時
					戦闘間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
					作業大隊より 入ソ返の變動 二三二大隊 (長 伊藤中尉) 定数約五〇名
					入ソ人員 隊別 計
					滿洲殘留
					收容所名 タイセツト
					收容所 所入 死亡
					滿洲ソ領 より 計
					歸還人員 計
					状況不明 者 数



八、一八、改定に於いて約  
七〇名程度減少(主方の行  
動不明)

八、二三、一部に於いて  
改定に於いて

警備、並にシテ  
地獄に於いて

112名(20.5.1編成)

17

隊 分 工 鞍	隊 分 工 木	隊 分 工 大	隊 分 工 鐵	部

隊分工按	隊分工木	隊分工大	隊分工鏡	部 本

読 出 部

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="635 728 1173 1102"><tr><td data-bbox="635 728 901 913">1</td><td data-bbox="901 728 1173 913">2</td></tr><tr><td data-bbox="635 913 901 1102">3</td><td data-bbox="901 913 1173 1102">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A3判以上のため				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0234  
0235  
0236  
0237

所 第五軍第一二六師團部 隊名 第一二六師團衛生隊 通稱號 郵便所名

全般概要

二〇、八、九、按河にて編成中第五軍の隷下に入る  
八、一〇、按河に移動  
八、一六、按道河子に轉進約一〇名戦死  
開拓團出身約九〇名除隊  
八、一八、按道河子にて武裝解除約三〇〇名  
因戦時約四〇〇名

轉入  
十九年以降

轉出  
十九年以降

員人制編

1000名(20.8.10編成)

別隊	本	部	隊中一第架担	隊中二第架担	三第架担)
隊長名 (内は先代を示す) 大尉 荒川					
開入 戦時 人員				(約400)	
駐屯地 平時 戦時		河 按			
戦斗間の状況及損耗					
終戦後の人員變動					

作業大隊より  
入「ソ」迄の變動  
二〇大隊  
(長 岩崎高夫大尉)

入「ソ」人員  
隊別計

滿洲残留

第 架 担)	隊 中 二 第 架 担	隊 中 一 第 架 担	部 本	別 隊	名
				隊長名 (内は先代を示す)	第一二六師團衛生隊
	(約400)			大尉 荒川	
				戦時人員	通稱號
			河 接	駐屯地	
				戦時	郵便所名
				戦時	
				戦闘間の状況及損耗	郵便所名
				終戦後の人員變動	
				作業大隊より 入ソ」迄の變動	郵便所名
				二〇大隊 (長 岩崎(夫大尉))	
				隊別	郵便所名
				計	
				満洲殘留	郵便所名
				收容所名	郵便所名
				ウオロシロフ地區 リポフニ第九收容所	
				所入	郵便所名
				死亡	
				満洲より	郵便所名
				帰還人員	
				計	郵便所名
				者	
				状況不明	郵便所名
				数	郵便所名

昭和10年8月10日

陸軍省

大日本陸軍省

陸軍省

陸軍省

1000名 (20.8.10編成)

	隊 中 三 第 架 担	隊 中 二 第 架 担	隊 中 一 第 架 担	部 本
				大 塚 荒 川
		(約400)		
				河 後

陸軍省



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="654 725 1187 1093"><tr><td data-bbox="660 725 912 909">1</td><td data-bbox="919 725 1181 909">2</td></tr><tr><td data-bbox="660 913 912 1093">3</td><td data-bbox="919 913 1181 1093">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					



0238  
0239  
0240  
0241  
0242

第五軍第一二六師團 部隊名 第一二六師團第一野戰病院

通稱號

郵便所名

全般概要	轉入	轉出	員人制編	別	隊長名	開人	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ返の變動	入ソ人員	滿洲残留
	十九年以降	十九年以降			(内は先代を示す)	時員	平時				隊別計	

昭和二十年八月十一日、陸軍病院河に移駐し、第百二十六師團第...  
 退せしむ

300名 (20.8.10編成)

昭和二十一年八月二十一日  
陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

0238	0239	0240	0241	0242	全 般 概 要	屬 所	第 五 軍 第 一 二 六 師 團	部 隊 名	第 一 二 六 師 團 第 一 野 戰 病 院	通 稱 號	郵 便 所 名
					轉 入 十 九 年 以 降						
					轉 出 十 九 年 以 降						
					員 人 編 制						
					別 隊						
					隊 長 名 ( <small>内は先代を示す</small> )						
					時 員	關 人					
					平 時	駐 屯 地					
					戰 時						
					戰 斗 間 の 狀 況 及 損 耗						
					終 戰 後 の 人 員 變 動						
					入 ソ 造 の 變 動	作 業 大 隊 よ り					
					隊 別 計	入 ソ 人 員					
						滿 洲 殘 留					
					收 入						

300名 (20.8.10編成)

隊名 第一二六師團第一野戰病院

通稱號

郵便所名

別 隊		隊 長 名 ( )内は先代を示す		開 入 戦 時 員		駐 屯 地		戦 斗 間 の 状 況 及 損 耗		終 戦 後 の 人 員 變 動		作 業 大 隊 以 外 の 入 出 人 員 變 動		入 出 人 員 計		滿 洲 殘 留		收 容 所 名		所 入 員 計		死 亡 者 數		滿 洲 領 有 者 數		狀 況 不 明 者 數	

国立公文書館  
アジア歴史資料センター  
〒100-8302 東京都千代田区千代田1-10-10  
電話 03-3588-3000  
FAX 03-3588-3001  
Eメール jacar@jacar.go.jp  
http://www.jacar.go.jp

300名(20.8.10編成)



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="625 745 1161 1117"><tr><td data-bbox="625 745 885 931">1</td><td data-bbox="885 745 1161 931">2</td></tr><tr><td data-bbox="625 931 885 1117">3</td><td data-bbox="885 931 1161 1117">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0243  
0244  
0245  
0246

		全般概要		第五軍第一二六師團		部 隊 名		第一二六師團第四野戰病院		通 稱 號	
		轉入 轉出 十九年以降									
350名(20.8.10編成)		編制人員									
		隊 長 名									
		( )内は先代を示す									
		開人 戦時 平時		駐屯地							
		戦時		戦地							
		戦闘間の状況及損耗									
		終戦後の人員變動									
		作業大隊より 入「ソ」迄の變動								郵便所名	
		入「ソ」人員									
		隊別計									
		満洲殘留									

第一二六師團第四野戰病院

通稱號

郵便所名

		隊長名 ( )内は先代を示す	
		開人	戦時員
		駐屯地	平時戦時
		戦闘間の状況及損耗	
		終戦後の人員變動	
		作業大隊より 入ッ」迄の變動	
		入ッ」人員	隊別計
		滿洲残留	
		收容所名	收容所
		所入	死亡
		滿洲より	歸還人員
		領計	者數
		者數	狀況不明



350名(20.8.10編成)



# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="639 734 1171 1104"><tr><td data-bbox="639 734 900 920">1</td><td data-bbox="900 734 1171 920">2</td></tr><tr><td data-bbox="639 920 900 1104">3</td><td data-bbox="900 920 1171 1104">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0247  
0248  
0249  
0250

第五軍第一二六師團

部隊名

第一二六師團病馬廠

通稱號

滿 九 一 二

郵便所名

全設概要

轉入

轉出

員人訓編

別隊

隊長名

戰時人員

駐屯地

戰鬥間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入ソノ迄の變動

入ソノ人員

滿洲残留

二〇、六、四八西通西北  
(西通屯)三〇野砲兵隊  
擧げのため移駐  
(二三名在江に發出)

二〇、三、一〇  
三三三野砲兵隊  
四三

二〇、三、一〇  
三三三野砲兵隊  
三三

員人訓編

別隊

隊長名  
(内は先代を示す)  
獸醫 大尉 小岩井重男  
衛生部長 佐藤孝一

戰時人員

駐屯地  
江 庭

戰鬥間の状況及損耗  
八、九、敵道田に命より八面通自裏屯  
附近に於て作戦配備す

終戦後の人員變動

作業大隊より入ソノ迄の變動  
二三三大隊  
(中 中隊後之助中尉)

入ソノ人員

滿洲残留

八、一〇、牡丹江に移動  
八、一、横道河子に撤退  
途中死亡三、行方不明三二  
名  
林口屯營にありし小山田  
美談少尉以下二〇名は八、  
一、本隊に合すべく轉進  
中、七島附近に於て戰鬥、  
四名は本隊に合流、他は行  
方不明  
八、一八、横道河子にて式  
裝解除

二〇、三、一〇  
三三三野砲兵隊  
三三

二〇、三、一〇  
三三三野砲兵隊  
三三

員人訓編

別隊

隊長名  
(内は先代を示す)  
獸醫 大尉 小岩井重男  
衛生部長 佐藤孝一

戰時人員

駐屯地  
江 庭

戰鬥間の状況及損耗  
八、九、敵道田に命より八面通自裏屯  
附近に於て作戦配備す

終戦後の人員變動

作業大隊より入ソノ迄の變動  
二三三大隊  
(中 中隊後之助中尉)

入ソノ人員

滿洲残留

119名 (20.1.16編成)

兵 81  
各部 6  
准下 7  
將 5  
99

119名(20.1.16編成)		別 隊	隊 名	第一二六師團病馬廠		通稱號	滿 九 一 二	郵便所名	
		大尉 小岩井重男 獸醫 藤原重吉 大尉 佐藤守一	隊長名 ( )内は先代を示す	戦時人員 99	戦時人員 5	駐屯地 江 陸	戦闘間の状況及損耗 八、九、敵進出し、命により八面進出果敢 附近に於て作戦配備につく	終戦後の人員變動	作業大隊より 入「ソ」迄の變動 一三二大隊 ( )内は臨時隊中隊
		兵 81 各部 6 准下 7 將 5	時 員	平 時	戦 時			入「ソ」人員 隊別 計	満洲残留
									收容所名 タイセツト
									收容所 員 死亡
									満洲より より領 計
									歸還人員 者 状況不明 数

二〇、六、四八  
一〇、三〇、三〇、三〇  
一〇、三〇、三〇、三〇  
一〇、三〇、三〇、三〇

八、一〇、三〇  
三〇、三〇、三〇、三〇  
三〇、三〇、三〇、三〇

八、一、横道河子に投退  
途中、三、行方不明三三  
名  
林口屯營にありし小山田直  
義少尉以下二〇名は八、  
一、本隊に合すべく、  
中、七風附近に於て、  
四名は本隊に合流、他は行  
方不明

八、一八、横道河子にて  
被擄

119名(20.1.16編成)

六、小岩井重男  
一、三、一、三、一、三、一

兵 81  
各部 6  
准下 7  
將 5  
99

江 蓋

八、六、横道河子に於て、  
一、三、一、三、一、三、一

一、三、一、三、一、三、一

119名 (20.1.16編成)

大尉 小岩井益男  
結核病一

99 ( 將 准 各 兵 )  
5 7 6 81

95

江 率

明治二十一年一月十六日編成

東洋文庫

119

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="632 723 1161 1093"><tr><td data-bbox="632 723 890 909">1</td><td data-bbox="890 723 1161 909">2</td></tr><tr><td data-bbox="632 909 890 1093">3</td><td data-bbox="890 909 1161 1093">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					



0251  
0252

0253  
0254

第五軍第一二六師團部隊名 第一二六師團防疫給水部

通稱號

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		編制人員		隊別		隊長名 ( )内は先代を示す		關人 戰時		駐屯地 平時		戰鬥間の狀況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より 入「ソ」迄の變動		入「ソ」人員 隊別計		滿洲殘留	
		十九年以降		十九年以降		200名 (20.8.10編成)																			

第一二六師團防疫給水部

通稱號

郵便所名

		隊長名 <small>(内は先代を示す)</small>	
		戦時	戦時
		平時	戦時
		駐屯地	
		戦闘中の状況及損耗	
		終戦後の人員變動	
		作業大隊より 入ソ返の變動	
		除別計	入ソ人員
		満洲残留	
		收容所名	收容所
		死亡	死亡
		満洲より	満洲より
		領計	領計
		者数	状況不明

200名(20.8.10編成)

※

200名(20.8.10編成)

\*

0253

5A  
/ HA

Handwritten scribbles